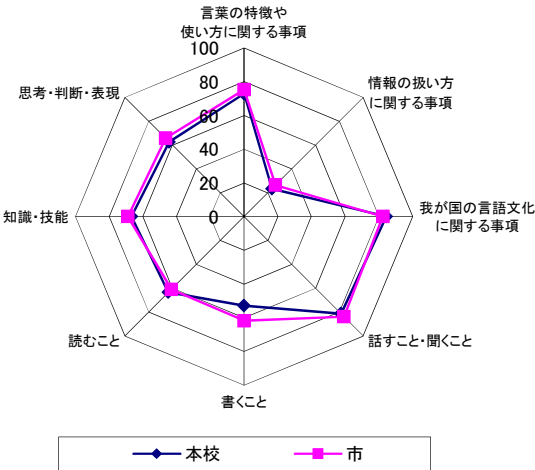


宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.0	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	23.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.4	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	81.4	83.9	84.2
	書くこと	52.8	61.7	64.5
	読むこと	63.4	60.9	61.0
観点別	知識・技能	66.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	62.8	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

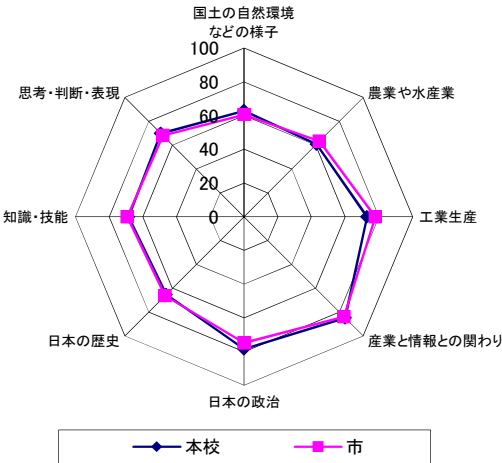
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	●平均正答率は73.0%で、市の平均と比べて5.3ポイント低い。 ○「文と文の接続の関係を理解している」項目は、市の平均と比べて2.7ポイント高かった。 ●漢字の読み書きについては、大部分の項目で市の平均正答率より低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習や、学習の始めなど、短時間を利用し小テストなどを実施するなど、漢字の読み書きに取り組む時間を意図的に設ける。熟語の成り立ち、敬語についても、朝の学習などを利用して、取り組めるようにする。
情報の扱い方 に関する事項	●平均正答率は23.4%で、市の平均と比べて3.1ポイント低い。 ○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」項目は、市の平均と比べて1.0ポイント高かった。	・説明文の内容を読み取る活動の際、情報と情報との関係について文章構成をまとめる活動を行う。 ・文章を要約する学習を適宜行う。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は84.8%で、市の平均と比べて2ポイント高い。	・言語由来に関心を持ち、和語や漢語、外来語についての理解を深めることができるように、新出漢字の学習の際、漢字の由来や熟語の学習を行う時間を今後も設ける。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は81.4%で、市の平均と比べて2.5ポイント低い。 ○「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」項目は、市の平均と比べて1.6ポイント高かった。	・話を聞く時のポイントを提示し、聞き取る活動を意図的に取り入れる。 ・意図が明確に伝わるような話し方、自分の意図に合った聞き取り方について、教科横断的に指導していく。
書くこと	●平均正答率は52.8%で、市の平均と比べて8.9ポイント低い。	・条件に合わせて自分の考えや、その考えの理由を書くことができるように、段落や字数などに合わせて書く学習を意図的に行う。 ・他教科においても、書く活動を意図的に取り入れ、文章の構成を考える機会を設けていく。
読むこと	○平均正答率は63.4%で、市の平均と比べて2.5ポイント高い。 ○「登場人物の心情や様子について、描写を基に捉えている」項目については、市の平均と比べて10ポイント以上上回っている。 ●「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている」項目については、市の平均と比べて4.2ポイント低い。	・今後も、物語文の指導の際は、登場人物の心情について描写を基に捉える活動を行う。また、説明文の指導の際は、問いと答え、因果関係について押えながら、文章の構成を捉える活動を行う。 ・初読の感想や疑問から課題を見つけて読み深める活動を行ったり、お互いの考えを共有し、自分の考えと読み比べ、相違点を見つけたりする活動を行う。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	62.8	60.5	65.8
	農業や水産業	60.8	63.3	66.0
	工業生産	73.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	84.8	83.8	76.6
	日本の政治	78.5	74.9	74.1
	日本の歴史	65.3	66.3	68.3
観点別	知識・技能	68.5	69.3	71.4
	思考・判断・表現	69.8	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

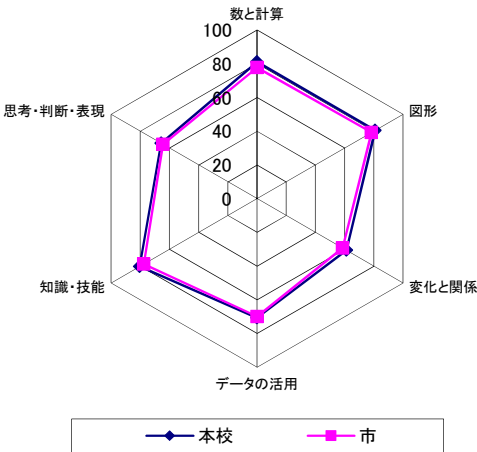
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の平均と比べて2.3ポイント高い。 ○国土の様子についての正答率が市の平均よりも7ポイント高く、地図をもとに考えて表現することができていると考えられる。 ●公害についての理解度が市の平均より、0.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・公害について、その原因や二度と起こさないための自分の考えなどをまとめに加えさせるなど、理解を深める学習活動を意識的に行っていく。
農業や水産業	●市の平均と比べて2.5ポイント低い。 ○米の品質を高める工夫についての理解が80%を超えている。 ●輸入などの外国との関わりにおける課題についての正答率が市の平均と比べて3.9ポイント低い。	・日本の食糧生産についての理解を深める活動を行っていく。特に、種類別の図やグラフを活用した学習を心掛けるとともにこれからの問題を自分の言葉で考えるようにさせる。
工業生産	●市の平均と比べて4.9ポイント低い。 ○自動車の製造工程についての理解度は、94.9%と、市の平均と比べ4.7ポイント高い。 ●日本の主な輸出品、輸入品についての正答率が市の平均と比べ、12.2ポイント低い。	・日本の輸出・輸入の背景について学習を深め、基礎的事項をしっかり定着させるとともに、グラフを扱った問題にも対応させていく。 ・自動車部品の再利用について、限られた資源を大切にすることの取り組みを行っていることを他の例も合わせてまとめさせていく。
産業と情報との関わり	○市の平均と比べて1ポイント高い。 ○情報の発信と受診の注意点についての問題では、市の平均に比べ、3.3ポイント高い。 ●産業における情報活用の現状についての正答率は、市の平均と比べて1.2ポイント低い。	・産業において情報がどのように活用されているか、具体的な事例を使って理解を深める学習を心がける。特に、スーパーマーケットの学習では、お店の立場や消費者の立場の両面からそれぞれの思いや願いを考えさせることで、情報がどのように生かされるのかを考えさせていく。
日本の政治	○市の平均と比べて3.6ポイント高い。 ○基本的人権の尊重の基本的な考え方についての理解度が、市の平均と比べ、8.6ポイント高い。 ●議会政治について、資料をもとに考えて表現する問題では、市の正答率より高かったものの正答率は、54.4%であった。	・条件に合わせて表現する力を高めていくために、キーワードを使ってまとめる活動などを行っていく。 ・衆議院と参議院の違いを調べその意味を考えることで、国会の機能と役割について理解を深めていく。
日本の歴史	●市の平均と比べて1ポイント低い。 ○天皇中心の様子や日本風の文化が生まれたころの様子についての理解度は市の平均と比べて、4.3ポイント高い。 ●資料に関する人物を答える問題の正答率が市の平均と比べ、13.1ポイント低い。	・その時代の出来事やキーワードと人物を関連付けて理解できるように、写真や映像資料などを活用する学習を意識的に行っていく。特に、作品の良さに触れるだけでなく、その人物についても調べ学習を進めるなど、理解度を高めていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.1	77.7	78.6
	図形	80.9	78.4	74.4
	変化と関係	61.2	58.7	53.0
	データの活用	70.7	69.9	57.2
観点別	知識・技能	80.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	65.6	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

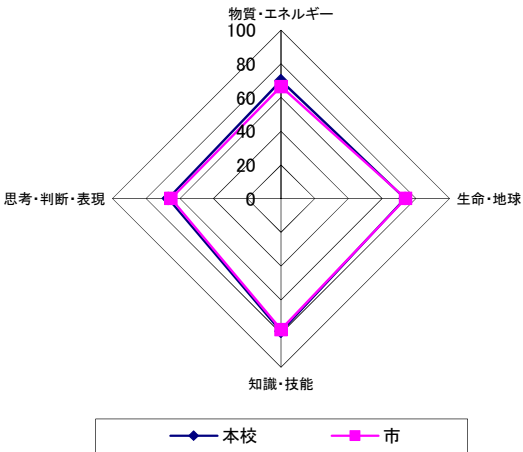
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市と比べて3.4ポイント高い。 ○「分数の計算」と「文字の式」の全ての問題において、市の平均を上回っている。特に異分母数の減法（約分なし）の計算では、市の平均正答率より8ポイント高い。 ●「小数の計算」の小数第一位×小数第一位の計算では、平均正答率が74.7%となっており、市の平均正答率より5.1ポイント低い。	・異分母の減法の計算は確実に理解しているが、約分ありの計算もできるよう、タブレットのドリル、「算数の力」やプリント学習で基礎的な計算問題を繰り返し練習させる。 ・小数第一位×小数第一の計算では、小数点が正しい位置に付いているか、確認することを徹底させる。
図形	平均正答率は、市と比べて2.5ポイント高い。 ○「面積と体積」の全ての問題において市の平均を上回っている。特に底面積と高さから角柱の体積を求める問題では、市の平均正答率より9.8ポイント高い。 ●図に示された四角形の内角の和の求め方を説明す問題では、市の平均正答率を上回っているが、平均正答率は40.5%である。	・図形の問題、「面積」と「体積」は、確実にコンパス、分度器、三角定規を使って、2mm以上誤差がないように指導していく。 ・四角形の内角の和は360°，三角形の内角の和180°，さらに多角形の内角の和、たとえば五角形の内角の和540°等を確認する。
変化と関係	平均正答率は、市と比べて2.5ポイント高い。 ○「単位量あたりの大きさ・速さ」の2つの問題全てにおいて市の平均を上回っている。特に速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均正答率より6.5ポイント高い。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選ぶ問題では、平均正答率が64.6%となっており、市の平均正答率より2.3ポイント低い。	・「単位量あたりの大きさ・速さ」の問題は、どれも市の平均を上回り、速さの問題「時・分・秒」の関係を理解しているが、これからも繰り返し指導していく。 ・生活に根差した百分率や割合がやや弱い。分かりやすく例を挙げ、その仕組みを確実に指導したい。
データの活用	平均正答率は、市と比べて0.8ポイント高い。 ○6問中4つの問題において、市の平均正答率を上回っている。特に円グラフから割合を読み取る問題の平均正答率は92.4%となっており、市の平均正答率より2.3ポイント高い。 ●平均から全体の量を推測する問題では、平均正答率が46.8%となっており、市の平均正答率より3.7ポイント低い。	・「データの活用」は、市の平均とほぼ同じだが、正答率は92.4%と高く、普段から社会科の統計資料などを活用しているためと考えられる。これからも生活に根ざした問題を取り上げ、指導していく。 ・統計資料を読み取り、全体の量を推測する問題を苦手にしていく児童が多いので、繰り返し問題を復習させたい。

宇都宮市立築瀬小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.9	66.5	66.3
	生命・地球	73.6	74.0	72.6
観点別	知識・技能	78.7	77.6	78.2
	思考・判断・表現	66.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市と比べて3.4ポイント高い。 ○電流のはたらきと物の燃え方では、どの設問も市の平均より高い。特に、コイルの理解に関する問題や物の燃え方の実験結果を検討し改善する問題では、それぞれ市の平均より16.0ポイント、12.6ポイント高い。 ●メスシリンダーで正しく測定し正しいろ過の操作を問う問題では、市の平均より5.3ポイント低い。	○今後も、どの比較対象実験においても、「変える条件」と「同じにする条件」を明確にするとともに、実験のねらいや実験方法を確認した上で取り組ませるようにする。また、結果の見方が妥当かどうかを話し合わせながら、ねらいに沿った考察ができるよう支援する。
生命・地球	平均正答率は市と比べて0.4ポイント低い。 ○だ液によってでんぷんがどのように変化するかを推測する問題では、市の平均より10.0ポイント高い。また、台風の発生と進路についての理解では、市の平均より6.2ポイント高い。 ●アメリカザリガニが水草を切ることによる影響を指摘する問題では、市の平均より8.2ポイント低い。	○予想や考察をする時間を大切にし、経験をもとに考えたり話し合ったりすることを通して、科学的な見方や考え方がもてるように支援する。

宇都宮市立築瀬小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・児童同士が学び合える活動等の工夫	・「築瀬小学習のきまり」を活用した、話し方や聞き方の指導	・「先生や友だちの話を最後まできちんと聞いている」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は1, 2, 6年は95%を上回り, 1, 2年生は市の平均より高く, 4, 6年生は市の肯定的解答と同じであった。その一方で3, 5年生は市の平均回答率より4ポイント以上低い結果となった。学校全体で安心して自分の意見を伝えることができる取組をさらに講じていく必要がある。
・学習の足跡が残るノート指導	・めあてを掲げ、その授業で何を学ぶのかをはっきりさせ、振り返りを行う取組	・「自分なりに分かりやすくノートをまとめている」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合はどの学年も市の肯定的割合を下回っていた。しかし、観点を与えた振り返りを行うことによって「学習した内容について分かった点やよくわからなかった点を見直し次の学習につなげることができる」のアンケートに肯定的に回答した児童の割合は6年生は市の平均を3.1ポイント上回った。一方で、3年生は市の平均より11.1ポイント低く、5年生は60%に達しなかった。学校全体でノート指導の徹底を来年度も継続して行っていくとともに、振り返りをノートだけでなく、ワークシートやタブレットを活用するなどし、学んだことを自分なりに整理させる工夫を講じていく。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査の算数では、習熟度別指導で個に応じた指導を実施したこと、ドリルやスキルを使用して日頃から多くの問題を解いたことで基礎的な学習能力が定着し、結果につながったと考えられる。6学年の実践を他の学年でも参考にし、学年の実態に応じた効果的な指導ができるよう、今後も指導方法を工夫していく。

・家庭学習に関しては、「宿題をきちんとやり期限までに提出している」のアンケートに、肯定的に回答した児童の割合は、90%を超える学年が2つの学年しかない。また、昨年度に比べ4つの学年できちんと宿題に取り組もうとしている児童の割合が減ってきていることが分かる。このことを踏まえ、来年度は家庭と学校が協力し、「共に進む」ための家庭へのアピールを考えていく必要がある。

・3年生以上の学年対象の「インターネットを活用して情報を得たり、調べたことをパソコンを使って相手に分かりやすく伝えたりしているか」についてのアンケートに、肯定的に回答した児童の割合は、ほとんどの学年が市の平均よりも下回っていた。資料の読み取りや情報を活用して自分の考えをまとめられるよう、様々な教科でICT機器を効果的に活用し、児童の理解や思考が深められる授業を実践していく。